

令和 7 年度 前期日程

「物理」 解答例

第 1 問

問 1

垂直抗力  $N$

$$\therefore N = mg \cos 30^\circ = \frac{\sqrt{3}}{2} mg$$

動摩擦力  $f'$

$$\therefore f' = \mu' N = \frac{\sqrt{3}}{2} \mu' mg$$

問 2

斜面下向きを正として、運動方程式をたてる。

$$ma = \frac{1}{2} mg - \frac{\sqrt{3}}{2} \mu' mg$$

$$\therefore a = \frac{1}{2} g (1 - \sqrt{3} \mu')$$

問 3

AB 間の距離が  $2h$  なので、等加速度直線運動の公式から

$$v_1^2 - 0^2 = 2a(2h)$$

$$v_1^2 = 2 \cdot \frac{1}{2} g (1 - \sqrt{3} \mu') (2h)$$

$$\therefore v_1 = \sqrt{2hg(1 - \sqrt{3} \mu')}$$

問 4

衝突直後の物体 1 の速度を  $V_1$  [m/s] とおくと、運動量保存則とはね返りの式より

$$mv_1 = mV_1 + 2mV_2$$

$$-\frac{V_1 - V_2}{v_1} = e$$

よって、 $V_2$  を求めると、

$$\therefore V_2 = \frac{1+e}{3}v_1$$

問 5

$$e=0.5 \text{ より、} V_2 = \frac{1+e}{3}v_1 = \frac{1}{2}v_1$$

物体 2 が点 C から点 D に移動することにより、物体 2 の高さが  $r(1 - \cos \theta)$  だけ増加した。

物体 2 が点 C から点 D に移動する間の力学的エネルギー保存則より、

$$\frac{1}{2} \cdot 2m \cdot V_2^2 = \frac{1}{2} \cdot 2m \cdot V_{2D}^2 + 2mgr(1 - \cos \theta)$$

式を立てていけば、2 点。

$$\therefore V_{2D} = \sqrt{\frac{1}{4}v_1^2 - 2gr(1 - \cos \theta)}$$

## 第2問

### 問1

状態 A と B に対してボイル・シャルルの法則から,  $\frac{p_B V_B}{T_B} = \frac{p_A V_A}{T_A}$

$$\frac{p_B \times 2.0 \times 10^{-2}}{4.0 \times 10^2} = \frac{2.0 \times 10^5 \times 2.0 \times 10^{-2}}{3.0 \times 10^2}$$

したがって,  $p_B = \frac{2.0 \times 10^5 \times 4.0 \times 10^2}{3.0 \times 10^2} = \frac{8}{3} \times 10^5 = 2.6666 \dots \times 10^5 \cong 2.7 \times 10^5 \text{ [Pa]}$

### 問2

単原子分子理想気体の定積変化なので, 外部との仕事のやり取りはない

したがって,  $Q_{AB} = \Delta U = \frac{3}{2} nR (T_B - T_A)$

理想気体の状態方程式から,  $p_A V_A = nRT_A$ ,  $p_B V_B = nRT_B$

ゆえに,  $Q_{AB} = \Delta U = \frac{3}{2} nR \left( \frac{p_B V_B}{nR} - \frac{p_A V_A}{nR} \right) = \frac{3}{2} (p_B V_B - p_A V_A)$

よって,  $Q_{AB} = \frac{3}{2} \times \left( \frac{8}{3} \times 10^5 - 2.0 \times 10^5 \right) \times 2.0 \times 10^{-2} = 1.0 \times 10^5 \times 2.0 \times 10^{-2} = 2.0 \times 10^3 \text{ [J]}$

### 問3

過程 B→C は等温変化なので内部エネルギーは変化しない

したがって,  $\Delta U = 0 \text{ [J]}$

### 問4

$p$ - $V$  図において等温変化は反比例のグラフとなる

また過程 A→B で気体の圧力は増加するので, 求めるグラフは (ク)

問 5

正味の仕事  $W$  は,  $W = Q_{AB} + Q_{BC} - Q_{CD} - Q_{DA}$

また熱効率  $e$  は,

$$e = \frac{W}{Q_{AB} + Q_{BC}} = \frac{Q_{AB} + Q_{BC} - Q_{CD} - Q_{DA}}{Q_{AB} + Q_{BC}} = \frac{Q_{AB} + Q_{BC}}{Q_{AB} + Q_{BC}} - \frac{Q_{CD} + Q_{DA}}{Q_{AB} + Q_{BC}} = 1 - \frac{Q_{CD} + Q_{DA}}{Q_{AB} + Q_{BC}}$$

### 第3問

問1

①  $Vt$     ②  $v_S t$     ③  $f_0 t$

④  $(V + v_S)t$     ⑤  $\frac{V+v_S}{f_0}$     ⑥  $\frac{V}{V+v_S}f_0$

問2

静止している反射板 R を観測者とする。

$$\lambda_2 = \frac{(V-v_S)t}{f_0 t} = \frac{V-v_S}{f_0} \text{ [m]}$$

$$f_2 = \frac{V}{\lambda_2} = \frac{V}{V-v_S} f_0 \text{ [Hz]}$$

問3

反射板 R を  $v_R$  で右に移動する観測者とする。反射板 R が受ける音波の波長は問2で求めた  $\lambda_2$  である。

$$f_3 = \frac{V-v_R}{\lambda_2} = (V-v_R) \frac{f_0}{V-v_S} = \frac{V-v_R}{V-v_S} f_0 \text{ [Hz]}$$

問4

反射板 R を速さ  $v_R$  で右に移動する音源とする。反射板 R が発する音波の振動数は問3で求めた  $f_3$  であるから音波の波長  $\lambda_4$  は次式となり、

$$\lambda_4 = \frac{V+v_R}{f_3} \text{ [m]}$$

地点 O で観測される音波の振動数は次式となる。

$$f_4 = \frac{V}{\lambda_4} = \frac{V}{V+v_R} f_3 = \frac{V}{V+v_R} \frac{V-v_R}{V-v_S} f_0 = \frac{V(V-v_R)}{(V+v_R)(V-v_S)} f_0 \text{ [Hz]}$$

問5

$$f_1 - f_4 = \frac{V}{V+v_S} f_0 - \frac{V(V-v_R)}{(V+v_R)(V-v_S)} f_0 = \frac{2(v_R - v_S)}{(V+v_R)(V+v_S)(V-v_S)} V^2 f_0$$

$$|f_1 - f_4| = \frac{2|v_R - v_S|}{(V+v_R)(V+v_S)(V-v_S)} V^2 f_0$$

[空欄] に入るのは  $2|v_R - v_S|$

第4問

問1

$C_1$  に蓄えられた静電エネルギー  $U_1$  は

$$U_1 = \boxed{\textcircled{1} \frac{1}{2} CV^2} \quad [\text{J}] \quad (1)$$

$C_1$  に蓄えられた電気量は

$$Q_1 = CV \quad (2)$$

であるから、電池が供給したエネルギー  $U_2$  は

$$U_2 = Q_1 V = \boxed{\textcircled{2} CV^2} \quad [\text{J}] \quad (3)$$

エネルギー保存則より、抵抗で消費されたエネルギー  $U_3$  と静電エネルギー  $U_1$  の和が電池が供給したエネルギー  $U_2$  に等しいから、

$$U_3 = U_2 - U_1 = \boxed{\textcircled{3} \frac{1}{2} CV^2} \quad [\text{J}] \quad (4)$$

問2

$C_2$  の極板面積が  $C_1$  の  $\frac{1}{2}$  であることから、 $C_2$  の電気容量は  $\frac{C}{2}$ 。したがって、 $C_1$  と  $C_2$  の合成容量  $C_4$  は

$$C_4 = C + \frac{C}{2} = \frac{3}{2} C \quad (5)$$

スイッチ  $S_2$  を閉じる前と後で電気量は保存されるので、スイッチ  $S_2$  を閉じた後のコンデンサーの電位差を  $V_4$  とすると、

$$C_4 V_4 = Q_1 \quad (6)$$

式(2)、式(5)を代入して

$$\frac{3}{2} CV_4 = CV \quad (7)$$

$$V_4 = \boxed{\textcircled{4} \frac{2}{3} V} \quad [\text{V}] \quad (8)$$

静電エネルギーの合計  $U_5$  は

$$U_5 = \frac{1}{2}Q_1V_4 = \boxed{\textcircled{5} \frac{1}{3}CV^2} \quad [\text{J}] \quad (9)$$

問 3

$C_2$  の極板間隔が 2 倍になったことから、 $C_2$  の電気容量は  $\frac{C}{2}$  の 2 分の 1 で  $\frac{C}{4}$ 。よって、極板間隔を 2 倍に広げた後の合成容量  $C_6$  は

$$C_6 = C + \frac{C}{4} = \frac{5}{4}C \quad (10)$$

となる。

このときのコンデンサの電位差は

$$V_6 = \frac{Q_1}{C_6} = \boxed{\textcircled{6} \frac{4}{5}V} \quad (11)$$

である。また、静電エネルギーの合計  $U_6$  は

$$U_6 = \frac{1}{2}Q_1V_6 = \boxed{\textcircled{7} \frac{2}{5}CV^2} \quad [\text{J}] \quad (12)$$

であり、その増加分  $U_7$  は

$$U_7 = U_6 - U_5 = \boxed{\textcircled{8} \frac{1}{15}CV^2} \quad [\text{J}] \quad (13)$$

問 4

$C_2$  の極板間の比誘電率が 2 倍になったことから、 $C_2$  の電気容量  $C_9$  は  $\frac{C}{4}$  の 2 倍で  $C_9 = \frac{C}{2}$ 。

誘電体を挿入した後のコンデンサーの電位差  $V_9$  は

$$V_9 = \frac{Q_1}{C + C_9} = \boxed{\textcircled{9} \frac{2}{3}V} \quad (14)$$

$C_1$  に蓄えられた電気量  $Q_{10}$  は

$$Q_{10} = CV_9 = \boxed{\textcircled{10} \frac{2}{3}CV} \quad [\text{C}] \quad (15)$$

静電エネルギーの合計  $U_{11}$  は

$$U_{11} = \frac{1}{2}(C + C_9)V_9^2 = \boxed{\textcircled{11} \frac{1}{3}CV^2} \quad [\text{J}] \quad (16)$$

であり、その増加分  $U_{12}$  は

$$U_{12} = U_{11} - U_6 = -\frac{1}{15}CV^2 \quad (17)$$

であるから、減少分は

$$-U_{12} = \boxed{\textcircled{12} \frac{1}{15}CV^2} \quad [\text{J}] \quad (18)$$

$U_{12} < 0$  より、誘電体の挿入によって系のエネルギーが減少した。よって誘電体を挿入する手は負の仕事をしたことになり、誘電体を挿入する方向と反対方向に力を加えたことになる。誘電体をゆっくり挿入するとき、誘電体が手に及ぼす力と手が誘電体を挿入する力は釣り合っているから、誘電体が手に及ぼす力は手が加えた力と反対、つまり誘電体を挿入する方向、すなわち  $\boxed{\textcircled{13} \text{極板間に引き込む}}$  方向である。

第5問

問1

(1)

コイルを貫く磁束の変化の大きさは

$$\Delta\Phi = \frac{\mu_0 I a b v \Delta t}{2\pi x_0(x_0 + b)} \text{ [Wb]}$$

(2)

$$\frac{\Delta\Phi}{\Delta t} = \frac{\mu_0 I a b v}{2\pi x_0(x_0 + b)} \text{ [Wb/s]}$$

(3)

(ファラデーの) 電磁誘導の法則

問2

(1)

$$\frac{\mu_0 I a b v}{2\pi x_0(x_0 + b)R} \text{ [A].}$$

(2)

P→Q

(3)

$$\left\{ \frac{\mu_0 I a b v}{2\pi x_0(x_0 + b)} \right\}^2 \frac{1}{R} \text{ [W]}$$

(4)

$$\left\{ \frac{\mu_0 I a b}{2\pi x_0(x_0 + b)} \right\}^2 \frac{v}{R} \text{ [N].}$$